

医学書院 <JINスペシャル> 看護研究の進め方 論文の書き方 ●第2版●

本書を活用した指導のポイント

加藤憲司 (大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター・特任教授)

はじめまして。加藤憲司と申します。第2版の共著者の一人として、本書を基礎教育における「看護研究」などの授業でご活用いただく際のヒントや指導のポイントとなる事項について、できるだけわかりやすく述べたいと思います。

第2版の特徴・編集上の工夫

まず、第2版の特徴や工夫した点をお話しします。本書はコンパクトなサイズでありながら、研究の最初の取っかかりから論文投稿にいたるまでの全過程を解説しようという、大変意欲的な試みを具現化したものです。したがって、盛り込む内容は厳選に厳選を重ね、本当に大切なことだけを、できる限りシンプルに記述するよう心がけました。

もちろん、「本書を読めばすぐに看護研究ができるようになる」などとは申しません。本格的に研究しようとするならば、もっと分厚い定番のテキストや個別の研究法を詳述した解説書を、辛抱強く読み進めていく必要があります。

本書が目的としているのは、将来看護研究をする、しないにかかわらず、初学者でも通読できるサイズの教科書によって、研究というものの全体の流れをイメージできるようにすることです。

“砂時計モデル”で理解する研究プロセスと授業の全体計画

本書ではその「流れ」を、砂時計の砂が上から下へ落ちていく様子にたとえました。なぜ砂時計にたとえたかということ、「①研究の各ステップの重要度は同等ではなく、それぞれに要する時間も一樣ではないこと」と、「②上に砂をたくさん詰めておけば（つまり、準備をしっかりすれば）、あとは自然に砂が下へ落ちるに任せればよいこと」を表現したかったからです。

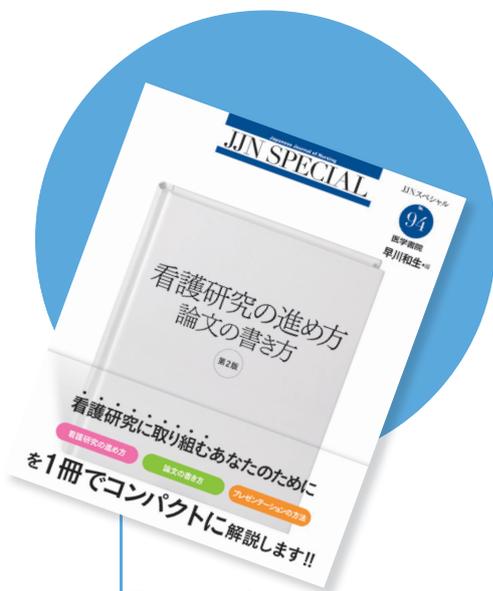
②については、ドミノ倒しにたとえる先生もおられますが、そのココロは同じです。砂時計のたとえの方がすぐれている点は、各部分の断面積が、それぞれのステップの所要時間とおおむね比例することです。



加藤憲司 (かとう・けんじ)

大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター特任教授

1966年岐阜市生まれ。早稲田大学教育学部生物学専修および大阪大学医学部保健学科卒業。大阪大学大学院およびスウェーデン王立カロリンスカ大学大学院修了。大阪大学博士(保健学)、カロリンスカ大学PhD(epidemiology)。保健師、看護師。岐阜県職員、世界保健機関(WHO)神戸センター技術担当官、国際医療福祉大学小田原保健医療学部講師、千里金蘭大学看護学部准教授を経て、現職。専門は疫学、地域保健学。



編著：早川 和生
判型：AB
頁：192
発行：2012年10月
定価：2,520円(本体2,400円+税5%)
ISBN：978-4-260-01683-4



本書を手にとり、砂時計の形をした図表を見つけてみてください(上図表。書籍のiiiページ,17ページに同じ図表があります)。

そこには10のステップが上から下へと書かれています。これらの10ステップのうち、砂時計が横にふくらんでいる部分、すなわちステップ①～③あたりと⑧～⑩あたりが、時間と労力を要する部分に相当します。

欧米では、完成度の高い研究計画書を書けるようになってはじめて、実際の研究に取り組むことを許されます。研究者として解き明かしたい問いを洗練させ、それを解き明かすための設計図である研究計画書を書けるようになる——初学者としては、これができるようになるだけでも十分なのです。

各専門学校、大学の授業計画・シラバスにもよるかと思いますが、初学者である看護学生にいきなり実際の研究を行わせることは、かなり大変なことだと考えます。「看護研究I」「看護研究II」

のように看護研究の授業を2年間に分けて実施される学校も多いことでしょう。

そこで「看護研究Ⅰ」などとして初めて看護研究を学ぶ学生を対象に、本書を用いた授業展開案をまずはご提案したいと思います。

授業の目標としてはステップ⑦までに設定し、①～⑦を砂時計モデルに沿って時間配分するというのが、私からのご提案です。ステップ⑦、つまり研究計画書を作成することを授業の到達目標とするわけです。

さらに、ステップ①～⑤までを授業時間全体の前半を使って行い、ステップ⑥～⑦までを授業時間全体の後半を使って行うというプランで授業全体の構成を考えてみました。

また、本稿の末尾に、指導者用のチェックリストを別表（本資料の5ページ参照）として掲げました。これらの項目を満たすような研究計画書を各学生が書き上げることを目標に、全体の授業構成を設計することになります。

学生が「答えを見つけたい」と思える リサーチクエスチョンを探し出すための授業展開

では、再び砂時計をご覧ください。本書で繰り返し述べているように、研究の全過程のなかでもっとも重要なのが、ステップ①の「リサーチクエスチョン・研究目的を決定する」です。「研究目的」というのは「リサーチクエスチョン」を肯定文に置き換えたものです（編集部註）。したがって、「よい問いを立てられるかどうか」が、まさに研究の命（いのち）だと言えます。本書19ページでは「厳しい言い方をすれば、『答えを見つけたい』と思う問いをあなたがもっていないのならば、本書を読んで研究について学ぶ必要もないということになります」というやや強い表現を用いましたが、それほどこのステップが研究において重要であることを学生に伝えていただきたいと思えます。

授業設計にあたっては、ステップ①で洗練された問いにたどり着くために、ステップ①～④を何度もループするような構成が望ましいでしょう。

編集部註：本書では、リサーチクエスチョン（研究上の問い）と表記を統一しています。
これらの用語は「リサーチクエスチョン≒研究上の問い≒研究目的」とほぼ同義とご理解ください。

ステップ ①

ステップ①ではまず、各学生にこれまでの学習や実習、あるいは日常生活において、「不思議だなあ」と感じる疑問や、興味を引かれる現象などを思いつくままに書き出させます。次に数人のグループ内で、思いついたことをお互いに披露し合うワークを行います。このとき、話し手が「なぜ自分がそれに疑問や興味をもつのか」を聞き手に理解させ、納得させるように話させることが大切です。一方、聞き手は話し手があいまいな部分を具体化したり、偏ったものの見方を正したり、議論を深めたりできるような意見を述べさせます。

ステップ ②

ステップ②では、グループワークで得られた気づきをもとに、自分の思いを「問い」の形で表現させます。最初に思いついたことだけにこだわらず、ワークを通じて別の問いが見つければ、変更や改良を繰り返して構いません。問いの形で表現したら、本書第2章第2節で挙げている「適切でない問い」（20～22ページ）に該当しないかどうかを各自で考察させ、修正させます。

ステップ ③

ある程度適切と言えそうな問いが立てられたら、ステップ③の文献検索に進みます。ここで、各学校の文献データベース利用環境における検索ツールの使用方法についての講義ならびに演習を、本書第3章と照らし合わせつつ行うとよいでしょう。

その後、各学生に自分の立てた問いに関連するキーワードを考えさせます。学生一人ひとりがデータベースにアクセスし、試行錯誤を繰り返しながら適切なキーワードを選び取る練習をさせてください。おおむね適切なキーワードが選択できたら、検索でヒットした文献の題名や抄録を、理解できるかどうかを気にせず広く浅く読ませてみます。これは第3章第3節でいうところの「情報収集の視点」での文献の読み方に相当します。

ステップ ④

前のステップで多くの学生は、文献からどんな情報をどのように読み取ったらよいかかわからず、頭が混乱してくるのではないのでしょうか。この経験を敢えてさせることは、ステップ④の「リサーチエスジョンの絞り込み」の重要性を実感させるうえで効果的です。ここで本書第2章第3節をていねいに読ませ、研究上の問いには「レベル」と「構造」がある、という知識を与えるのです。そして、前のステップで集めた文献一つひとつについて、「この研究の問いのレベルはどれか」「この研究の問いの構造はどのようなものか」を書き出させましょう。そのうえで、あらためて自分の問いを見つめ直させます。おそらく1回目に立てた問いは大幅な改良が必要となるでしょうから、ステップ①または②に戻ってやり直します。

この①～④のループの回数は学生ごとに異なって構いません。意欲のある学生ほど、ループの回数が多くなると思います。なお、このループについては、第3章第3節でも例を挙げて解説しています。

ステップ ⑤

授業回数が残る半分を切ったあたりで、中間発表会もしくは短いレポート提出の形で、各学生に自分のリサーチエスジョンを発表させます。発表会での質疑応答もしくはレポートに対する指導者の添削を経て、各自のリサーチエスジョンが決定することになります。これがステップ⑤です。

後半の授業展開

後半の授業では、最終課題である研究計画書を意識させながら、本書第4～6章の内容の講義を行います。ただし第4章は発展的な内容を含むので、初学者は質的研究と量的研究の違い、および量的研究における実験研究と観察研究（非実験研究）の違いが理解できればよいでしょう。研究計画書の提出をもって、ステップ⑥と⑦の到達の度合いをチェックし、評価します。このうちステップ⑥の研究デザインの適切性に関しては、第4章第4節にある「問いのレベルと研究デザイン」の対応表と合致しているかどうかのチェックだけで十分だと思います。



以上、砂時計モデルに即して、指導のポイントを解説してきました。この解説自体、砂時計を意識した構成（すなわち、前半重視）になっていることにお気づきかと思います。

研究の入り口に学生をしっかりと導くことができれば、次のステップとして「看護研究Ⅱ」などの授業において第4章、第7～8章で解説した研究の具体的な実施、口頭発表や論文執筆につなげていきます。

本書を通じて、一人でも多くの学生が看護研究の基本を体得していただければ、著者の一人として望外の喜びです。長文にお付き合いいただき、ありがとうございました。

加藤憲司

別表 研究計画書チェックリスト(指導者用)の例 ※◎は、特に重要な項目

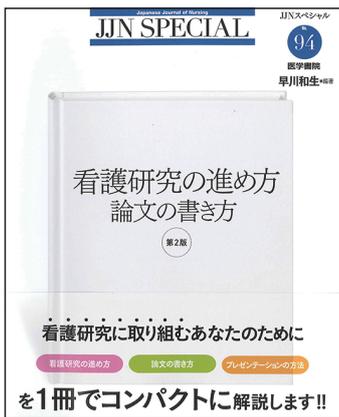
▼項目	▼基準
① 研究題名	<ul style="list-style-type: none"> ●適度な長さで、明快な表現が用いられているか ●研究内容全体が正しく反映されたものとなっているか ●本文を読んでもたくなるような、魅力的な題名であるか
② 研究の背景	<ul style="list-style-type: none"> ●学生自身の問題意識が明瞭に読み取れるか ◎文章の構成が論理的であるか(ストーリーの流れが追いやすいか) ●文献検索の方法(データベース名・キーワード・年代等)および結果が簡潔にまとめられているか ●関連分野の主要な先行文献が(漏れなく)引用されているか ●先行文献が適切に要約されているか ◎これまでに何がわかっている、何がわかっていないかが明確に述べられているか ◎先行文献の流れの中でこの研究がどこに位置付けられ、どんな新しい知見を加えることになるかが明確に述べられているか ◎この研究を行うことの重要性が説得的に述べられているか ●専門外の者が読んでも研究の意義が伝わるように書かれているか
③ 研究目的	<ul style="list-style-type: none"> ●研究の背景や文献レビューの論理的帰結として、目的・仮説が提示されているか(論理に飛躍や矛盾がないか) ●研究の実行が可能な程度にまで、目的・仮説が具体的かつ特異的(specific)に絞り込まれているか ●誰を対象に(who)、何を(what)どのように(how)調べればよいかを読み取れるような表現になっているか ●その目的で研究することに、普遍性や発展性が期待できそうか
④ 研究方法	<ul style="list-style-type: none"> ●研究デザインの名称が明記されているか ●その研究デザインは、前項の研究目的と合致しているか
① デザイン	
② 対象者	<ul style="list-style-type: none"> ●研究対象となる者が明確に定義されているか ●その対象者を選ぶことは、前項の研究目的と合致しているか ●対象者数の算定根拠が示されているか
③ 実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ●研究を実行することが可能な場所が選定されているか ●その場所を選ぶことは、前項の研究目的と合致しているか
④ データ収集方法	<ul style="list-style-type: none"> ●収集するデータの内容(測定項目など)が明記されているか ●そのデータを収集することは、前項の研究目的と合致しているか ●データ収集の開始・終了時期が明記されており、その期間の長さが適切か ●データを誰がどこでどのように収集するかが明記されているか ●質問紙の様式など、必要な資料が添付されているか
⑤ データ分析方法	<ul style="list-style-type: none"> ●収集されたデータの量や性質に即した分析方法を用いているか ●その分析方法は、前項の仮説の可否を検討する上で適切であるか
⑥ 倫理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ◎この研究においてどのような倫理的問題が想定されるかが正しく把握・理解できているか ●倫理的問題の発生を回避するための適切な方策が述べられているか ●万一、倫理的問題が発生した場合に講ずるべき対処法が述べられているか ●同意書の様式など、必要な資料が添付されているか
⑤ 引用文献	<ul style="list-style-type: none"> ●第三者が文献にあたるのに必要な情報が漏れなく記載されているか ●(学術雑誌を特定する場合)投稿規程に定められた形式に合致しているか

看護研究の進め方、論文の書き方、 プレゼンテーションの方法をコンパクトに凝縮!

ベストセラーの第2版。「研究テーマを探す」「研究を実際に進める」「論文や口頭発表で成果をまとめる」という看護研究の一連のプロセスを、この1冊でしっかりサポート。カラー化し、理解を助ける図表・イラストも豊富に盛り込み、入門書として最適の1冊。基礎教育のテキストとしても活用しやすいよう、基本事項を網羅し、読者に語りかけるような解説で、親しみやすさをめざしました。

JJNスペシャル

No. 94



看護研究の進め方 論文の書き方

第2版

編著 早川和生 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻・教授

目次

- 第1章 ようこそ、看護研究のワンダーランドへ!
- 第2章 研究全体の流れを知り、リサーチクエストを決定する
- 第3章 文献の探し方・検討の仕方
- 第4章 研究デザインと研究手法
- 第5章 具体的な研究の進め方
- 第6章 具体例で学ぶ研究のポイント
- 第7章 研究成果を発表する
- 第8章 研究成果を論文にまとめる

● AB判 頁192 2012年 定価2,520円(本体2,400円+税5%) [ISBN978-4-260-01683-4]



これだけは知っておきたい
整形外科
編集 細野 昇

● AB判 頁196 2012年
定価2,730円
(本体2,600円+税5%)
[ISBN978-4-260-01450-2]



アセスメント力を高める!
バイタルサイン
徳田安春

● AB判 頁136 2011年
定価2,520円
(本体2,400円+税5%)
[ISBN978-4-260-01310-9]



これだけは知っておきたい
糖尿病
編集 榎田 出

● AB判 頁168 2011年
定価2,310円
(本体2,200円+税5%)
[ISBN978-4-260-01389-5]



ナースのための
ME機器マニュアル
監修 小野哲章/渡辺 敏
編集 加納 隆/廣瀬 稔

● AB判 頁224 2011年
定価2,940円
(本体2,800円+税5%)
[ISBN978-4-260-01192-1]



〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23
[販売部] TEL: 03-3817-5657 FAX: 03-3815-7804
E-mail: sd@igaku-shoin.co.jp http://www.igaku-shoin.co.jp

携帯サイトはこちら



消費税率変更の場合、上記定価は税率の差額分変更になります。